

「うみ、おとどけます！」をキャッチフレーズに、病気などで水族館を訪れることができない人たちの施設に出張する葛西臨海水族園（江戸川区）の移動水族館車が、9月9日から本格的に活動を始める。今月は特別支援学校や病院、高齢者施設などから申し込みがあった11件のうち、都立村山特別支援学校（武蔵村山市）など6件が抽選で決まった。

水族館車は、東京湾の魚や熱帯魚の水槽をトラック荷台に備えた「うみくる号」、ヒトデやウニなど磯の生物に触れる体験資材を積んだワゴン車「いそくる号」の2台で構成。今年3月に完成後、車椅子や寝たきりの人が生き物に触れるようにするにはどうしたらいいか、スタッフ間で工夫を重ねてきた。

重度障害のある子供が通う村山特別支援学校には、9日に水族館車がやってくる。同校は高等部の学習に活用する意向で、魚の事前学習も実施。中でも磯の生物に触れる体験に期待する。

これまで水族園に出掛けたこともあったが、車椅子を固定できるリフト付き観光バスなどによる移動が大変なため、移動動物園などを探していたという。教員は「学校に来てもらえるのは魅力的。子供

たちも楽しみにしている」。

水族園によると、訪問先の募集には9月実施分に11件、10月分に22件、11月分に15件の申し込みがあった。「大きい魚が見たい」「触れる体験を中心に」といった訪問先の希望をくみ取って生き物を入れ替えたり、下見などの事前準備をしたりするためには、週1回程度の出張が精いっぱいという。

高齢者施設からの申し込みも多い。9月22日に水族館車が訪れる新宿区のデイサービス施設、ルーツ支援センターの下田光子所長は「百歳のお年寄りも『水族館車ってどんなのかしら』と楽しみにしている」と語る。センターは戸山団地の中にあり、団地の住民も参加できるようにポスターなどで知らせる考えだ。

対象外の都外からの出張申し込みもあるという。水族園の担当者は「水族館に来られなくても、生き物に興味を持って、身近に感じてもらえればうれしい」と張り切っている。問い合わせは葛西臨海水族園＝電話 03（3869）5152＝へ。

（東京新聞・東京 2015年9月9日）